

第3回逗子市総合的病院選考委員会概要

- 開催日時 平成28年11月28日(月) 13:30～16:30
- 開催場所 市役所5階第8会議室
- 出席委員 長澤泰委員長、白須和裕委員、榎孝悦委員
- 欠席委員 なし
- 参考出席者 一般社団法人逗葉医師会 池上会長
- 事務局 須藤福祉部長、浅羽福祉部次長
国保健康課：廣末課長、西海副主幹、橋本主事
- 記録作成者 国保健康課：橋本
- 会議の公開・非公開の別 非公開（情報公開条例第20条第1項第2号に該当）
- 非公開理由 意思決定過程情報であり、公開されると公正かつ適正又は円滑な執行を妨げる恐れがあるため
- 会議の概要
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 総合的病院にかかる選考基準の決定
 - ・これまでの議論をもとに、修正した選考基準案の確認をした。
 - ・市の施策への協力及び地域医療機関との連携という選考基準を追加した。
 - ・ヒアリングで項目1から3以外の追加評価を行うこととし、最終的に選考基準を決定した。
 - (2) ヒアリングの実施

応募のあった2者について、ヒアリングを実施した。1法人につき1時間とし、最初出席者の自己紹介の後、15分程度で法人による提案説明を受けた後、質疑を行った。

医療介護ひかりグループ医療法人光陽会鎌倉ヒロ病院へのヒアリング

(法人の概要) 医療介護ひかりグループ概要、医療法人光陽会概要、鎌倉ヒロ病院概要について説明があった。

(提案概要)

1. 地域医療構想、機能分化を意識した医療介護の環境整備
2. 逗葉地区、その他近隣病院との連携実績による地域医療の充実
3. グループ内異動、連携、地方求人による人材確保
4. 施設内に留まらない交流による地域貢献
5. 継続運営による社会貢献

(主な質疑応答)

- ・ 問：平成 27 年度が赤字となっていることについて原因は何か。
答：「持ち分のあるグループ内の医療法人」を「持ち分のない法人」としたことにより、贈与税を支払ったため。
- ・ 問：資金調達について
答：自己資金 10 億円、残り 35 億円については銀行からの融資による調達。
- ・ 問：200 床以上が必要である在宅療養後方支援病院あるいは地域医療支援病院の要望があるが、現有病床から 24 床を持ってきて 199 床とする理由は何なのか。
答：200 床を超えると、病院の機能がかなり限定されてしまう、また、200 床を境に病院がちょっと違うものになってしまうので、必要性により 254 床まで拡大する方が現実的だと考える。
- ・ 問：一般病床数から考えて、24 時間 365 日の救急医療体制は可能か。
答：内科、外科の 2 科当直で考えている。現在のヒロ病院も、一般病床 13 床で 24 時間 365 日の救急を受けているので、対応可能。夜間等の小児救急については、現時点では難しいと判断している。
- ・ 問：看護体制について
答：一般病床では 10 対 1、地域包括ケア病床では 13 対 1、療養病床では 20 対 1 の看護基準を想定している。
- ・ 問：人材確保について
答：医療法人光陽会に逗子近隣地区から入職している職員の異動、地方求人等により事前準備することで確保できると考えている。
- ・ 問：施設の設計について
答：住宅側の接点では、住民の目線が気にならない形を考えている。差額病室については、現時点で差額ベッド料は資金計画上では見込んでいない。
- ・ 問：医療法上の病床区分について
答：一般病床が 99 床で地域包括ケアを含める。療養病床は 100 床と考えている。

- ・問：第三者評価の取得について
答：病院機能評価をグループ内で順次取得しているが、鎌倉ヒロ病院ではまだ取得できていない。

(主な意見)

- ・24時間365日の救急が可能と言っているが、医師、看護師数等からどれだけ受け入れることができるか疑問である。
- ・医師の数からして、救急医療より高齢者対応の医療に近いのではないか。
- ・診療科目が多いが、医師が重複しているのではないか。
- ・一般病床数に対して、手術室3室は多いのではないか。

医療法人社団葵会へのヒアリング

(提案概要)

1. 逗子市の中核病院となることを目標とし、在宅療養後方支援病院、地域医療支援病院を目指す。
2. 急性期、回復期、慢性期を医療機能とする。
3. 同医療圏及び周辺医療圏の病院、診療所、医療福祉関係の諸機関と緊密な連携体制を構築する。
4. 横浜南共済病院の重点的関連病院と位置付ける。
5. 三浦半島地域病院群輪番制に参加し、逗葉地域医療センターと緊密な連携をとり救急医療のスムーズな運用を維持する。

(主な質疑応答)

- ・問：麻酔科がないことについて
答：科としては標榜しないが、当然手術があるので麻酔医の確保を考えている。
- ・問：横浜南共済病院との連携について
答：今月から、オペ室見学等医師の勉強という基本的な連携から始めている。今後の救急については、トリアージをし、必要に応じ搬送をする。
- ・問：小児救急について
答：医師が確保できれば、1.5次くらいまでは可能。
- ・問：看護体制について
答：基本的には10対1でスタートする。地域包括ケアについては、13対1で考えている。

- ・問：人材確保について
答：葵会傘下の病院からを基本とし、全国から募集する。看護師については外国からの受け入れも考えている。
- ・問：医療法上の病床区分について
答：すべて一般病床で、療養病床の取得は考えていない。
- ・問：資金調達について
答：初期投資の1割を自己資金、3割を公的金融機関、残り6割を銀行からと考えている。初年度は収支マイナスとシミュレーションをしている。
- ・問：施設的设计について
答：患者のことを考え、全室個室で考えている。室料差額を50%とし、そのうち70%が請求と計算し、差額収入3億2,000万円を見込んでいる。

(主な意見)

- ・公募条件には合致しているが、これだけの医師数を確保できるのか疑問。
- ・個室率50%で差額ベッド代1万円というのは市民にとってきついのではないか。

3 その他

- ・次回までに仮採点を各委員で行い、それをもとに次回引き続き議論をすることとする。

4 閉会

(以上)